しらこばと 昭和63年8月2日第3種郵便物認可 令和4年7月1日発行(毎奇数月1回1日発行)第453号

WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこばと

2022.7-8

No.453

日本野鳥の会 埼玉

SHIRAKOBATO

埼玉の野鳥チェックリスト（中文版）の作成から

= 大中小のつく名前　　ホウロクシギは大杓鷸！？=　　近藤 龍哉（上尾市）

執筆者の近藤龍哉さんには、2020 年 11 月号で中国と台湾それぞれの中文名で「埼玉の野鳥チェックリスト」を紹介していただいた。今月号と合わせて読んでいただけるとより興味深くなります。

● はじめに

人類の鳥との付き合いは古く、おそらくはまだ文字のない時代から呼び名を付けていたであろう。やがて文字ができ、中国では鳥専用の文字も生まれた。呼び名はある集団の共通認識があってのこと、目の付け所によって変わるので、地方によって違ったものになったであろう。いわゆる地域名といわれるものには、そうした過去の呼び名が様々に反映しているに違いない。

交流が進み、学問が進んで、今では世界鳥類目録の類の進歩も目覚ましい。分布の調査や分類の方法の進歩がその基礎にある。かつて「渡り鳥保護条約の締結のため、各国の鳥のリストに和名のないものがあり、必要に迫られて命名をした」時代*1 は過去のものとなった。今は、国際的には学名があり、英名がある。しかし各地域（国）には、地域名（地方名）がある。その地域名を、あちらは、どういうつもりで付けているかと、お互いが直接理解し合える時代でもある。

● 名前の素材と大中小

色や大きさなどの外見の特徴（形態）、鳴き声、しぐさなどの特徴、生息地や繁殖地（生態や分布）が名前の素材*2 となる。

シラサギと呼ばれていたものが、区別されてコサギとダイサギになり、その中間が認識されてチュウサギとなる。このように大中小と分ける方法は、素朴かつ基本的で世界共通のようだ。だがここでは、和名では「シラ」が省略されていることにも留意しておこう。同じシラサギだから、いちいち白はつけなくてもよい。日本語にはわかりきったことを省略する言葉の文化がある。

そこへ行くと、中国語は律儀である。「白鷺」は基になるもので欠くことはならず、それに大中小をつけて、「大白鷺」「中白鷺」「小白鷺」*3 とフルネームで呼ぶ。白を入れても一音節増えるだけということもあるが、日本語のように気楽に省けない言葉だと言ってもいいかもしれない。

● 「杜鵑」も大中小で区別

中国では大中小で区別するものに「杜鵑」類もある。日本では今はカッコウ科というが、以前は杜鵑（とけん）科といった。「杜鵑」はホトトギスのことである。

ホトトギスは、鳴き声からその名前が付いたとは、安部直哉先生が書いておられる。「キョッキョ、キョキョキョ」を「ホット　ホトギ」と聴いたという説*4 である。私には子供のころから耳になじんだ「テッペン　カケタカ」以外しっくりこないが、カッコウほどではないにしろ、鳴き声らしいと想像できなくもない。そして、ツツドリも、「ポポポ」という竹の筒の切り口を叩いて鳴らすような声から付いたとすれば、三者三様ながらどれも鳴き声由来の名前ということになる。

中国でもカッコウは様々に呼ばれ、「郭公」や「布谷」など、鳴き声由来の名前が今も広く使われてはいるのだが、正式には大杜鵑だ。

「杜鵑」の鵑はカッコウ目を表す漢字で、杜は人の苗字である。古い伝説で、蜀の国の望帝（国王の名）は、姓を杜、名を宇と言ったが、この王が恨みを残して死に、その魂が鳥（杜鵑）となったというのである。

この話は古くから定着しているので、中文名はこの「杜鵑」をもとに、体の大きさからカッコウ、ツツドリ、ホトトギスを、大中小に分けて命名しているのである。*5

すっきりしているようにも思うが、実際にはカッコウとツツドリなど大きさで判断するのは難しく、一声鳴いてくれれば済むので、鳴き声にこだわる命名の方が私は好きだ。

ホウロクシギ（撮影　鈴木 功）

ダイシャクシギ（撮影　鈴木 功）

●　もう一つの大中小

もう一つ大中小で区別されるのがシャクシギ「杓鷸」である。嘴が下にカーブを描くように反るのが，ひしゃくの柄の様だと付いた名である。日中共通の認識だ。

チュウシャクシギは、群れの塒入りを見に行ったこともあり、一番なじみが深い。対してダイシャクシギとホウロクシギは、見分けるのが難しい。どこでも見られるわけではないので、季節や観察地によりおおよその見当はつくが、初めの頃は判断に迷ってしまった。コシャクシギはずっと見る機会がなかったが、今年初めて県内で見ることができた。喜びは大きかったが、嘴があまりに短くカーブも小さいので、ここからひしゃくの柄を連想するのはちょっと難しいとも思った。

中国でも台湾でも、「小杓鷸」「中杓鷸」は同じだ。それに対して「大杓鷸」は、台湾ではダイシャクシギのことだが、中国ではホウロクシギのことになる。

これは一大事である。両方の中文版チェックリストを見た人は、作成者のミスと思うだろう。どちらが正しいのかと問い合わせがくるかもしれない。同じ言葉が別のものを指すだけでなく、それも反対物を指すような状況は避けなければならない。

「大杓鷸」は、台湾、日本とも同じダイシャクシギを指すのだからこのままにして、中国のホウロクシギの呼称を変更するしかあるまい。とは言っても、私が勝手に変えるわけにもいかない。

でもご安心あれ、解決法は私にはとうに見つかっていた。というより、本来はもともと解決していたのである。中国では以前から、大きな杓鷸に２種あるとして、その判別法を含んだ「白腰杓鷸」「紅腰杓鷸」という対句のような命名がなされ、通用していたのである。もちろん白腰の方がダイシャクシギで紅腰の方がホウロクシギである。

では、なぜその一方を中国では「大杓鷸」としたのか。「紅腰」が言い過ぎと考えたか。いや、おそらくは、大杓鷸という呼称をどうしても使いたかったのであろう。確かにホウロクシギが最大ではある。

私は、たとえ大中小がそろわなくなっても、この対句のような見事な名前の方を選択することにした。かくして再び私の作業原則をまげることになってしまった。

因みに台湾では、ホウロクシギを黒＋宛鷸とする。この難しい字が焙烙を意味することはないようで、黒ずんだ色、シミやドロハネの跡をいうらしい。ちょっと気の毒な名前だ。

最初「中文名は地方名であるから学名にぴったり合わせなくてよい」*6 という宣言に感心した私だが、この作業を通して少し疑問も生じて来た。他の地域（国）の地方名との関係に配慮し整合性をとるという視点も必要ではないのか、という思いである。

だがまた一方、それを事実と受け止めて、その差や違いを知り味わうことこそ、この作業の意味だったのではないか、とも思う。

<注>

1　山階芳麿著「世界鳥類和名辞典」(大学書林)の「序」
2　他に、個人を記念して種名の一部としたものがある。たとえば和名では「イイジマムシクイ」など。
3　ただしコサギは中国ではただ「白鷺」とする。
4　「山溪名前図鑑　野鳥の名前」山と溪谷社
5　ツツドリは台湾では「北方中杜鵑」とする。
6　鄭光美主編「世界鳥類分類与分布名録」の「前言」

2022年 春　シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉　調査部

日　時：2022年4月29日　　9:30～11:30
場　所：さいたま市　大久保農耕地
天　候：曇り

前線を伴った低気圧が西日本から東日本の南岸を東北東に進むため、天気が心配されましたが、午前中は雨が降らなかったため、予定通りに調査できました。また、今回も新型コロナウイルス感染防止のため一般公開を中止しました。調査を楽しみにしていた会員の皆様には、ご迷惑をおかけいたしました。

田植えが終わっている田が半分くらいあり、水も入っていたため調査をするにはよい環境でした。4月24日にはAs区で3羽のコシャクシギを4月25日にはA’区で12羽のムナグロを観察したとの報告がありましたが、当日はAs区以外の地区はコチドリしか確認できず、観察されたのは3種36羽でした。

今年は昨年と違って、田の作業は例年通りのような感じでしたが、昨年と比べてみても種数は同じで個体数は19羽多いだけでした。

〈調査結果〉

	A区	B区	As区	A’区
ムナグロ			２２	
コチドリ	３	４	５	１
タシギ			１	

下の表は春の調査結果のうち、最近の10年間をまとめたものです。それ以前の記録は『しらこばと』2012年6月号（№338）をご覧ください。

※表の中の「タシギ属不明種」はタシギ以外のタシギ属のため、種数には入れませんでした。　　（石井　智）

春 の カ ウ ン ト 結 果　（大久保農耕地）

年		2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
調査日		4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29		4/25	4/29
天候		晴れ	曇り	晴れ	晴れ	晴れ	快晴	晴れ		晴れ	曇り
1	ムナグロ	211				64		19	荒川総合運動公園閉園中のため調査中止	5	22
2	コチドリ	11	10	5	6	6	7	4		11	13
3	セイタカシギ			1							
4	タシギ	8	2		9	2	6	1		1	1
5	チュウシャクシギ	2	1	2	4	1					
6	タカブシギ	1				1					
7	オジロトウネン	1									
9	タマシギ	2									
	タシギ属不明種			2	1		3				
合計		236	13	10	20	74	16	24		17	36

さっそく反響がありました！

野鳥記録委員会

本誌2022年5−6月第452号に掲載された「21 世紀に入ってからこの鳥 見てる？」を執筆した榎本です。この記事で私は、「『埼玉県鳥類リスト』に掲出されている野鳥でも、最近の記録を聞かないものがある」と申し上げました。そして、21世紀に入ってからの記録が途絶えている野鳥について、「お持ちの情報をお寄せください」と皆さまにお願いしました。

この呼びかけに対し、さっそく５月の下旬から情報の提供が相次いでおります。

実にありがたいことです。情報をお寄せくださった皆さまに心より感謝申し上げると同時に、私の文章が多くの皆さまの目にとまったことを喜ばしく思う次第であります。

ここで、再度のお願いです。「これは」という記録をお持ちの方は、ぜひとも本誌奥付にある「編集部への野鳥情報」のアドレスまで情報をお寄せください。写真があればベターですが、「姿を目撃した」、「声を聞いた」というご連絡だけでも結構です。そういった皆さまからの情報が、当会野鳥記録委員会を力づけることにつながります。

聞くところによれば、秩父のほうで「何年か前にイスカが出た」という話もあります。なんと「昨年、ヤイロチョウが撮影された」という話もありました（ヤイロチョウは1978年以降では初の記録となります）。

しかし、これらの話は、その信ぴょう性が高いにもかかわらず、野鳥記録委員会として発表できるだけのはっきりした情報提供がありません。単なる「うわさ話」に棚上げされています。どこかに記録が眠っていることは間違いないのです。そういう記録をなんとか掘り起こさなければ、と思っています。

さて、このたび寄せられた情報は、頃合いを見計らって、野鳥記録委員会としても何らかの形で記事にまとめたいと考えております。今後とも、よりいっそうのご支援をよろしくお願いいたします。

ネット印刷に変更します！

編 集 部

「あっ、カラー印刷が増えた！」。今月号はそんな声が聞こえてきそうです。

印刷方式をオフセット印刷からネット印刷に変更しました。関連して、末尾のページ「連絡帳」の活動報告もご覧ください。

以下は、その役員会の議案第3号に付記した資料です。

【資料】「オフセット印刷とネット印刷について」

本来、オフセットの印刷会社は「原稿や資料を受け、割り付け、１次校正用原稿の作成、２次校正用原稿の作成、版下作成」をする。しかし、編集部ではこの行程を自前で行い、経費削減に努めてきた。その結果、今現在では、１回の印刷代が約87,000円（年間522,000円）程である。

さらなる経費削減を摸索したところ、ネット印刷にすれば１回の印刷代は 42,000 円程度で済むことが分かった（年間252,000円）。さらに、試し印刷を依頼して手触りや仕上がりを確認したところ、許容範囲であることが了承された。

※オフセット印刷（従来の『しらこばと』はこの印刷方式）

＜利点＞仕上がりが綺麗である。印刷会社は、編集部作成の版下を文字の配置、写真の色など最終調整を行っている。

＜欠点）ネット印刷に比べるとコスト高。

※ネット印刷（版下の入稿も含め、全てネットで行う）

＜利点＞価格が安い。編集部作成の版下をそのまま印刷するので、結果的に全ページがカラー化。

＜欠点＞自前で完全なデータを作成・用意する必要がある。印刷会社は、版下の最終調整等は行わない。

なお、ホッチキス綴じが標準仕様で、外す場合は別料金がかかるそうです。

今後、編集部には“印刷会社は、版下の最終調整等は行わない”が重くのしかかってきます。引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。

保存版　講 演 会 の 記 録 □　山口芳邦（新座市）

昨年、栃木県支部の友人との個人的なやり取りの中で、当会の講演会についていくつかの質問を受けました。それがきっかけで、今まで実施されてきた 12 月の年末講演会と例年なら６月の総会時の講演会について、『しらこばと』の記事をもとにまとめてみました（総会については次号以降に掲載　編集部）。

まとめを進める段階で、長きにわたりすばらしい講演会を継続してきた歴代関係者の皆さんに対する敬意と当会への誇りを感じた次第です。

2020 年からは新型コロナ禍のため、講演会は中断されていますが、はやくコロナ禍が去り、講演会が再開されることを願っています。

日本野鳥の会 埼玉　年末講演会（12 月）

年	回	講師（敬称略）		テーマ
1984	講演会なし			
1985	講演会なし			
1986	1	中山正至	栃木県支部事務局長	オオタカを守って
1987	2	中林玲子	日本野鳥の会ツル保護特別委員会事務局長	こんにちはタンチョウ
1988	3	平野伸明	野鳥写真家	町に生きるタカ・チョウゲンボウの未来
1989	4	叶内拓哉	野鳥写真家	鳥草抄・撮影裏話
1990	5	久保田義久	野鳥映画製作者（プロダクション未来）	映画「野鳥の巣箱」とお話
1991	6	塚本洋三	日本野鳥の会専務理事	オーストラリア鳥事情
1992	7	藤本和典	ナチュラリスト	世界の鳥とそれをとりまく自然
1993	8	川内　博	都市鳥研究会事務局長	都市に住む鳥について
1994	9	加藤幸子	芥川賞受賞作家・日本野鳥の会理事	鳥と自然
1995	10	松田禮雄	NHK アナウンサー	野鳥や自然について
1996	11	叶内拓哉	野鳥写真家	幻の鳥ヒメクビワカモメについて
1997	12	蒲谷鶴彦	野鳥・自然の録音家	スライド・録音テープによる話（鳥の鳴き声や海外の探鳥）
1998	13	山形則男	野鳥写真家	スライドを使いながらの話（日本産ワシタカ類について）
1999	14	河内啓二	東京大学先端科学技術センター教授	生物の飛行
2000	15	上田恵介	立教大学理学部動物生態学助教授	秋ヶ瀬で繁殖する鳥たちの生態―水田生態系の重要性―
2001	16	中野泰敬	写真家・日本野鳥の会ネイチャースクール講師	国内外の野鳥・エコツーリズム
2002	17	日比　彰	新和ツーリスト	世界の鳥と鳥見事情（世界の探鳥地と探鳥事情）
2003	18	東　昭	東京大学名誉教授	生き物の形の理と動きの妙
2004	19	高松建比古	栃木県支部	渡良瀬遊水地の猛禽たち
2005	20	長谷川 博	東邦大学理学部教授	アホウドリ保護研究30年
2006	21	安西英明	日本野鳥の会普及室主任研究員	身近な鳥の不思議
2007	22	松田道生	野鳥研究家・日本野鳥の会評議員	江戸の野鳥と自然の話
2008	23	谷口高司	野鳥イラストレーター・日本野鳥の会評議員	フィールドガイド日本の野鳥増補改訂版製作に携わって
2009	24	唐沢孝一	都市鳥研究会代表・自然観察大学副学長	鳥の目から見た都市環境
2010	25	江崎勉郎	三宅島自然ふれあいセンター・アカコッコ館レンジャー	日本野鳥の会保護プロジェクト～カンムリウミスズメとアカコッコを中心に～
2011	26	叶内拓哉	野鳥写真家	野鳥観察の楽しみ方
2012	27	長谷川 博	東邦大学理学部教授	種の再生に向かうアホウドリ
2013	28	榎本友好	山科鳥類研究所標識調査員	バードウォッチングと鳥類標識調査（バンディング）
2014	29	大谷　力	バードガイド（観察種 約6,000）	海外探鳥の楽しみ方
2015	30	蒲谷剛彦	日本野鳥の会奥多摩支部幹事（蒲谷鶴彦氏の御子息）	鳥声録音―録音こと始め―
2016	31	遠藤孝一	NPO 法人オオタカ保護基金代表・日本オオタカネットワーク代表	オオタカの生態と保全～希少種解決はあるのか？
2017	32	神戸宇孝	画家	鳥を描く楽しみ
2018	33	西村眞一	中西悟堂研究家	日本野鳥の会誕生の秘話
2019	34	上田恵介	日本野鳥の会会長・立教大学名誉教授	野鳥との出会い・野鳥の会の思い出
2020	コロナ禍のため中止			
2021	コロナ禍のため中止			

野鳥情報

加須市柏戸 渡良瀬総合グラウンド　◇10月24日、ツツドリ２。撮影できた個体（下写真）は幼鳥だった（鈴木　功）。

さいたま市岩槻区 岩槻文化公園　◇10月24日、ミズキの実にキビタキ♀１とジョウビタキ♀１。ジョウビタキは今季初認。キビタキの声は他所でも。シメも今季初認。ツツドリ成鳥１をじっくり観察。12月５日、ヒドリガモ、カルガモ、キジバト、カワウ、ダイサギ、イソシギ、イカルチドリ、ハイタカ♀、カワセミ、コゲラ、モズシジュウカラ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、ツグミ、シロハラ、ジョウビタキ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、シメ、アオジ、カシラダカなど。今冬、今のところ、ツグミが少ない（鈴木紀雄）。◇11月17日、村国池上空で２羽のチョウゲンボウが自由を謳歌するかのように輪を描いた。翼に陽光が透けて鷹斑が綺麗だった。元荒川の対岸でイソシギが忙しく採餌している傍らで、イカルチドリ６が思い思いに休息。下流の方からヒドリガモ50±が飛来し、慌ただしく着水した。他にマガモ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、カワセミ、モズ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロなど（長嶋宏之）。

北本市 北本自然観察公園　◇10月26日、オシドリ♀、マガモ、カルガモ、コガモ、キジバト、アオサギ、トビ、カワセミ、モズ、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ハクセキレイなど（嶋田富夫）。◇11月24日、ヒヨドリに追われてか、ヨシ原からガビチョウ７が次々と出てきた。ベニマシコ♂♀とルリビタキ♂成鳥が出てくるのを５～６人のカメラマンが根気よく待っていた。他にマガモ、キジバト、アオサギ、カワセミ、モズ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロなど（長嶋宏之）。

さいたま市岩槻区横根　◇10月26日、約100m離れた電柱にとまるノスリ２。10月27日、農家の屋敷林にとまるノスリ１。10月29日、電線にズラッと並ぶミヤマガラス50＋。１羽は電線に足でぶら下がって遊んでいた。11月13日、草地にホオアカ１。11月16日、地面すれすれにクサシギが飛び去る。11月25日、電柱のチョウゲンボウ♂１、ハクセキレイにモビングされ、飛び去る。ホオアカ１、ツグミの声。11月26日、屋敷林のムクノキにツグミ４が静止。うるさく飛び回るヒヨドリと対照的。12月22日、高木にとまる１羽と飛翔する１羽、計２羽のノスリ（鈴木紀雄）。

さいたま市見沼区膝子　◇10月27日、タヒバリの声、電線にミヤマガラス９、ムクドリ約40が水たまりで大騒ぎしつつ水浴び。ヨシ原にアオジ１。10月29日、タヒバリが鳴きつつ飛翔。11月１日、側溝にカワセミ♀１。上空チョウゲンボウ♂１飛ぶ。ヨシ原からオオジュリンの声。11月２日、稲田にホオアカ３＋、アオジ１、タヒバリ。11月５日、刈取り前の稲田にホオアカ６＋。ミヤマガラスとハシボソガラス約50の群れに、珍しくハシブトガラス１が混じる。11月９日、チョウゲンボウが急降下するも狩りに失敗。次にハイタカが突如出現。ヨシ原にアオジ♂１♀３、ホオアカ４。11月10日、草地にホオアカ３とセッカ１。11月11日、環境センター上空でチョウゲンボウ♂とハシボソガラスの追いかけ合い。バトルというより遊びのようだ。ミヤマガラス50。草地にホオアカ２、カシラダカ１。ヨシ原からアリスイの声。11月13日、ホオアカ２、

アリスイの声。11月16日、小さな側溝にカワセミ♀１。すぐ横のクワイ田の網に引っかからないかと心配になる。11月17日、ミヤマガラス50の群れ中のハシボソガラスがコーヒーの空き缶をくわえて上空から畑に落とす行為を２回行う。11月18日、タシギが刈田に着地。久しぶりに見る。ホオアカ１。11月19日、ホオアカ３、カシラダカ数羽。11月25日、ホオアカ３＋、カシラダカ３、カワラヒワ３、モズが草地に。犬の散歩に驚いて「ミュー」と鳴いて飛ぶタゲリ１、ここでの初認。11月26日、屋敷林にノスリ１。草地でホオアカ３＋、ホオジロ♀、カワラヒワなど。12月３日、スズメ400の大群乱舞。嘴基部の黄色の個体が多いが、若鳥とはいえないらしい。チョウゲンボウ出現。電柱にノスリ１、草地にホオアカ３＋、カシラダカ３、ホオジロ♂１、カワラヒワ10。12月17日、今冬もノスリ３を確認。12月22日、高木にとまるノスリ１。ハヤブサ１が飛んで行く。（鈴木紀雄）。◇11月３日、ヒバリ、スズメの群れ、モズ３＋。ノスリ２、１羽はカラス２に追われて南に飛ぶ。もう１羽は木の天辺近くにとまっていたが、カラスの攻撃を受けていた（藤原寛治）。

蓮田市 山ノ神沼（54390521） ◇10月30日、オシドリ♂、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、コサギ、バン、オオバン、カワセミ、モズ、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメなど（嶋田富夫）。◇11月10日、８日まで見られたというオシドリ♂もいなくなり、静けさが戻った山ノ神沼。オオバン14が首を前後に振りながら、一列に並んで水面を行く。カルガモ28に混じってマガモ８が岸や浮島で睡眠。杭の上でコガモ９が並んで夕日を浴び、ヒドリガモ８は背を向けて遠ざかった。他にカイツブリ、キジバト、ゴイサギ、コサギ、モズ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ムクドリ、ハクセキレイなど（長嶋宏之）。

蓮田市 西城沼公園周辺 ◇10月30日、ジョウビタキ♀が柿の木の天辺で鳴いていた。今季ここでの初認。他にコガモ、キジバト、カワウ１上空通過、コゲラ、モズ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、メジロ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイなど。11月４日午前６時50分、西から東へ、ガンのような姿の鳥30±が鈎状になって飛んで行った。カワウではなかった。11月６日、イチョウの梢に亜種オオカワラヒワ20±の群れ。今季ここで初認。 11月10日、イチョウの梢にシメ２が並んだ。今季ここで初認。11月28日、イチョウの梢にツグミがとまった。今季ここで初認。他にキジバト、カワウ、コゲラ、モズ、オナガ、シジュウカラ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイなど。12月７日、ケヤキの樹冠で採餌しながら枝移りするアトリ30±の群れ。今季ここでの初認。12月27日にも、50mほど離れたケヤキに30±のアトリの群れがいた。12月20日、突然、小型のタカが屋敷林から飛び出し、目の前をすごいスピードで通り過ぎた。ツミ♀のようだった（長嶋宏之）。

加須市上種足 埼玉県環境科学国際センター周辺 ◇10月31日、スズメ、メジロ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、シメ、ジョウビタキ、コゲラ、ヒヨドリ、シジュウカラ、ムクドリ、モズ、ホオジロ、ヒバリ、アオサギ、コサギ、カルガモなど（村越百合子）。

入間市宮寺 さいたま緑の森博物館周辺 ◇11月４日、コジュケイ、ヒヨドリ、メジロ、ホオジロ、スズメ、シジュウカラ、エナガ、コゲラ、キジバト、シメ、ジョウビタキ、ウグイス、モズ、オオタカ、カワラヒワ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、アオゲラ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、キセキレイ、イカル、アオジ、キジ♀、ガビチョウ（村越百合子）。

鴻巣市大間一丁目 ◇11月７日午前７時30分頃、ツグミの「クイックイッ」という声を１声聞く。今季初認。なかなか姿は見られない。このときは声だけ（榎本秀和）。

越谷市 越谷レイクタウン ◇11月７日、カ

ンムリカイツブリ１、チョウゲンボウ１、シロハラ２（鈴木　功）。

加須市柳生、柏戸　◇11月13日、ハイイロチュウヒ♀成鳥１（下写真）、ハヤブサ幼鳥１。ハイイロチュウヒは田んぼを低空で飛んでいた（鈴木　功）。

越谷市増林　◇11月14日、コクマルガラス20＋、ミヤマガラス300＋。夕方、田んぼに集まってきた（鈴木　功）。

さいたま市緑区 見沼自然公園　◇11月14日、林内のムクノキにシロハラ１、今季初認。11月29日、ヒドリガモ、オナガガモ、コガモ、カルガモ、オカヨシガモ約20、ヨシガモ♂１。オカヨシガモの声が「ウェッグエッ」とまるでカエルの声。林内にアカハラ♂１、今季初認。他にシロハラ、カワセミ、エナガ、ツグミ、ジョウビタキ、シメなど（鈴木紀雄）。

上尾市 戸崎公園～さいたま市北区 三貫清水の石碑周辺　◇11月14日、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ムクドリ、メジロ、スズメ、オナガ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、シジュウカラ、エナガ、キジ、ホオジロ、アオジ、モズ、カケス、ウグイス、ジョウビタキ、コサギ２、カワウ２、バン成鳥１、幼鳥２、オオバン４、カワセミ２、カルガモ16（村越百合子）。

さいたま市緑区上野田　◇10月26日、ハイタカ１飛翔。11月２日、10月５日と同じ電柱にノスリ１。11月17日、電柱にノスリ１。11月18日、遠くの木にシメ１（鈴木紀雄）。

さいたま市緑区寺山　◇11月17日、「キョッキョッ」と鳴き飛び去るツグミ３。今季初認（鈴木紀雄）。

上尾市地頭方～平方領領家　◇11月18日、スズメ62、メジロ18、シジュウカラ13、ムクドリ42、ハシボソガラス15、ハシブトガラス19、オナガ28、カワラヒワ９、ハクセキレイ７、セグロセキレイ４、モズ６、ヒバリ11、アオジ３、ホオジロ５、カルガモ７、コジュケイ６、エナガ９、キジ♂２♀４、キセキレイ１、ジョウビタキ♂６♀２、ツグミ４（今季初認）、シメ４、キジバト15、オオタカ２、アオサギ２、ダイサギ１、ガビチョウ３（村越百合子）。

さいたま市南部領辻 トラスト１号地　◇11月21日、ヒヨドリ、コゲラ、メジロ、シジュウカラ、シロハラ、ツグミ７、カワラヒワ８、ホオジロ６、ハシボソガラス、ハシブトガラス、エナガ、モズ、ムクドリ、ウグイス、ジョウビタキ♂３♀２、セグロセキレイ、ハクセキレイ、アオジ、キジバト、アカハラ（水浴び）、コサギ、キジ、ダイサギ、カケス（村越百合子）。

越谷市千間台　◇11月23日、新方川でヒクイナ１。昨季と同じ場所で今季も確認できた（鈴木　功）。

吉見町 八丁湖　◇11月24日、トモエガモ♀２羽が寄り添って水に浮かんでいた。換羽途中のマガモ♂に♀がしっかり追随して泳いでいた。ノスリ若鳥が逆風を受けながら輪を描いた後、去って行った。他にマガモ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、亜種オオカワラヒワ、ホオジロなど（長嶋宏之）。

蓮田市椿山 元荒川河川敷公園　◇11月26日、ヒドリガモ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、ダイサギ、コサギ、オオバン、イカルチドリ、イソシギ、モズ、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ハクセキレイ（長嶋宏之）。

久喜市高柳（54391533）　◇11月28日、大宮栗橋線の電線にミヤマガラス約200、コクマルガラス約10（嶋田富夫）。

さいたま市　鴨川　◇11月30日、下流の学校橋～島根橋でダイサギ２、アオサギ１、

コサギ１、カワウ６、カイツブリ１、カンムリカイツブリ１、カルガモ12、マガモ17、コガモ３、キンクロハジロ１、オオバン３、イソシギ、セグロセキレイ、ハクセキレイなど。12月21日、島根橋～上流の学校橋でカルガモ２、コガモ50＋、オオバン57＋、ダイサギ、アオサギ、ゴイサギ、カイツブリ、ハクセキレイ、キセキレイ、カワセミ、モズ、オナガ、キジバト、アオジ、スズメ、メジロ、ジョウビタキ、オオタカ成鳥１（獲物のキジバトで食事）、ハシボソガラス、ハシブトガラス（大塚純子）。

加須市 加須はなさき公園　◇12月２日、オオタカが悠然と輪を描いていた。他にヒドリガモ、マガモ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、オオバン、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ムクドリ、ハクセキレイ、セグロセキレイなど（長嶋宏之）。

戸田市 道満グリーンパーク　◇12月２日、道満池でカイツブリが12～13羽、三々五々泳ぐ中、私にとってこの池で初見のカンムリカイツブリが１羽、ヒョイと顔を出した。他にアオサギ１、オオバン３、マガモ♂３♀１、カルガモ４。突然カワセミが目の前を横切る。池の周りの大木間をムクドリ、ヒヨドリ、ツグミ等の中小の群れが行き来したり、草むらにおりたり。賑やかな夕暮れ間近の一瞬だった（陶山和良）。

さいたま市桜区　彩湖北端及び荒川彩湖（通称カマキリ）公園　◇12月３日、ホシハジロ、キンクロハジロ、ヒドリガモ、ハシビロガモ、コガモ約180。カワウ４、カンムリカイツブリ10、ダイサギ1、ハクセキレイ２、ヒヨドリ、ツグミ、ハシボソガラス、スズメ、シジュウカラ（陶山和良）。

さいたま市南区 西浦和小学校　◇12月３日、メジロ10、シジュウカラ５、ヒヨドリ、スズメ（陶山和良）。

さいたま市桜区神田　◇12月17日、住宅地上空でカラス１が踊り狂っている？ので、よく見ると、くわえていたクルミ大の黒い物体を落としては、素早く嘴でキャッチして遊んでいるのだった（大塚純子）。

加須市下高柳(54391439)　◇12月17日、調節池でマガン（下写真）、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、ミコアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバンなど（嶋田富夫）。

上尾市中分 下芝水辺公園周辺　◇12月19日、ハシボソガラス、ハシブトガラス、キジバト、ハクセキレイ、セグロセキレイ、メジロ、スズメ、ウグイス、ホオジロ、カワラヒワ、ムクドリ、モズ、シジュウカラ、ヒヨドリ、カルガモ28、マガモ、エナガ、ジョウビタキ、ノスリ２、オオタカ、オナガ、キジ、コサギ、ドバト（村越百合子）。

上尾市 丸山公園　◇12月22日、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ムクドリ、メジロ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイ、ウグイス、スズメ、ホオジロ、キジバト、キジ♀、マガモ14、カルガモ12、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、シジュウカラ、ツグミ、カケス、コジュケイ、アオジ、アカハラ、シメ、カワラヒワ、コゲラ、アカゲラ、モズ、ヒヨドリ、カシラダカ、エナガ26、カワセミ２、オナガ18、チョウゲンボウ、ジョウビタキ。池の水がなかった（村越百合子）。

表紙の写真

チドリ目チドリ科チドリ属イカルチドリ

2020年７月。荒川の上流域で生まれた若鳥♀が、移動中に立ち寄ったものと思う。

蟹瀬 武男（さいたま市）

行事案内

９～10 月に開催される探鳥会のご案内です。
探鳥会は全て事前予約制です。

【事前予約制探鳥会の開催要項】

1. 日本野鳥の会会員限定の先着順（ただし、埼玉会員優先）とする。
2. **申し込みは、当会のホームページから**とする［特記の探鳥会以外は原則として**開催日の４週間前**（９月開催分から“４”に戻します）**から、ホームページで受け付けを開始します**］。
   予約なしでの参加はご遠慮ください。
3. 探鳥会の運営は「コロナ禍の下での探鳥会運営マニュアル」（最新版が、当会ホームページの「探鳥会」>「今月の探鳥会」から閲覧できます）に沿って実施する。
4. **必須条件**：マスクなどの飛沫防止策（ご用意のない方は参加をご遠慮ください）。
5. 筆記用具や観察用具（双眼鏡等）は、各自で用意する。
6. 万一、探鳥会開催後に参加者から新型コロナウイルス感染者が出た場合には、参加者名簿を保健所に提出する。
7. 新型コロナウイルスの感染拡大が続いている場合は、**探鳥会を中止する事があります。最新情報をホームページで確認してから参加してください。**

【熱中症対策について】

コロナだけでなく、熱中症も心配な季節となりました。普及部では猛暑下での探鳥会をどのように運営するかについて検討し、2018 年７月に「熱中症ガイドライン」を作成しました。13 ページにガイドラインの概要を掲載しますので、ご一読ください。このガイドラインに沿って探鳥会を中止する場合も、ホームページおよび参加者各位へのメールでお知らせしますので、お出かけの前に必ずチェックしてください。

安心・安全な探鳥会運営のために、ご協力よろしくお願いします。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：**９月 18 日（日）　要予約**
集合：午前９時、さいたま市立浦和博物館。
解散：正午前に集合地で。
交通:JR 北浦和駅東口バスターミナルから東武バス１番乗り場「さいたま市立病院行」8:21 発で終点下車。
募集人数：20 名
後援：さいたま市立浦和博物館
担当：青木、浅見(健)、浅見(徹)、小林(み)、畠山
見どころ:もはや９月は残暑ではありません。８月同様暑いと思われます。暑さ対策を万全にしてお越しください。基本の鳥を皆様と一緒に探したいと思います。

コロナ前 2019 年９月の三室地区定例探鳥会風景
日射しを避けて、見沼代用水西縁沿いの木陰道

長野県松本市・白樺峠～上高地探鳥会(要予約)

期日：**９月 18 日(日)～19 日(月・祝)**
集合：18 日午前８時 45 分、JR 上田駅温泉口（南口）。
交通：上越・北陸新幹線あさま 601 号に乗車（大宮 7:17→熊谷 7:29→上田 8:25 着）。集合後解散まで貸し切りバス（中型バス・27 人乗り）を使用。

解散：19 日 18 時 30 分ころ、長野駅。
費用：33,000 円の予定。【現地バス代・宿泊費・親睦会費・２日目の昼食代・保険代等】過不足の場合、当日清算。
定員：20 名（応募多数の場合は先着順）。最小催行人員 17 名。
申し込み:当会ＨＰで８月１日から受付開始。
担当：入山、近藤
見どころ：４年ぶりの白樺峠の探鳥会です。１日目は、白樺峠でサシバやハチクマのタカ柱を観察します。２日目は、初秋の上高地で渡りの途中の小鳥達を観察します。宿自慢のきのこ料理で秋の味覚を楽しみましょう。
その他：宿泊は、男女別の相部屋です。個室の用意はできません。雨天等の場合、日程を変更する予定です。

松伏町・松伏記念公園探鳥会

期日：**９月 23 日（金・祝）　要予約**
集合:午前９時 30 分、松伏記念公園北口駐車場。
交通:東武伊勢崎線 北越谷駅東口①番バス乗り場から茨急バス・エローラ行き 9:00 発で「松伏高校前」下車。または武蔵野線 吉川駅北口③番バス乗り場から茨急バス・エローラ行き 8:40 発で「松伏高校前」下車。
解散：正午ころに集合地で。
共催：松伏町中央公民館
募集人数：当会会員 20 名、共催団体５名。
担当：山部、石川(光)、佐藤(宏)、佐野、橋口
見どころ：公園では、南へ渡る山の鳥に会いたい。田んぼでは、稲刈りに追われて飛び出すバッタ類やカエルたちを狙うサギたちを見ます。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：**９月 25 日（日）　要予約**
集合：午前９時、西武新宿線 狭山市駅西口。
交通：西武新宿線 本川越 8:40 発、または所沢 8:38 発に乗車。
解散：正午ころ、稲荷山公園で。
募集人数：20 名
担当:長谷部、石光、佐藤(久)、山口、山本(真)
見どころ：この時季は夏鳥と冬鳥の境目。ここ入間川ではちょっと中途半端。その代わり運がいいと渡りの途中に羽を休める鳥たちに会えることがあります。たまにね。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：**10 月２日（日）　要予約**
集合：午前９時、北本自然観察公園・埼玉県自然学習センター玄関前広場。
解散：正午前に集合地で。
交通：JR 高崎線 北本駅西口から、「北里大学メディカルセンター行き」バス 8:38 発で「自然観察公園前」下車。
募集人数：25 名
担当：吉原(俊)、相原(修)、秋葉、浅見(徹)、大畑、近藤、千葉、吉原(早)
見どころ：この時季の探鳥会は、コロナで２年連続中止でした。しかし、下見だけはやっていて２年連続で珍客に出会えました。高尾の池には、早くもコガモが帰って来ていました。

2021 年 9 月末 北本自然観察公園 高尾の池で

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：**10 月２日（日）　要予約　ビギナー向け**
※　この探鳥会に限って、会員でない方の予約も受け付けます！　お知り合いの非会員の方を誘ってみては。
集合：午前９時、浦和くらしの博物館民家園駐車場（念仏橋バス停前）。
解散:正午ころ、浦和くらしの博物館民家園。
交通：JR 浦和駅東口①番バス乗り場から、東川口駅北口行き 8:37 発で「念仏橋」下車。
募集人数：20 名
担当：大井、伊藤、須崎、手塚、野口、藤田
見どころ：芝川第一調節池を反時計回りで一周

します。野鳥観察を始めたいけれど何から？探鳥会って何？　鳥を見つけるコツは？　など、はじめの一歩を踏み出したい方、ぜひご参加ください。

ご注意:コースの途中にトイレはありません。なお、天候によってはコースを変更します。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：**10 月 16 日（日）　要予約**

集合：午前９時、さいたま市立浦和博物館。

解散：正午前に集合地で。

交通:JR 北浦和駅東口バスターミナルから東武バス１番乗り場「さいたま市立病院行」8:21 発で終点下車。

募集人数：20 名

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：須崎、青木、浅見(健)、浅見(徹)、小林(み)、畠山

見どころ：秋の渡りも終盤。10 月は「ノビタキ探鳥会」です。観察回数は減ってきていますが、ノビタキを求めて芝川沿いを歩きます。

長野県・戸隠高原探鳥会（要予約）

期日：**10 月 22 日(土)～23 日(日)**

集合：22 日午前９時、長野駅コンコース、新幹線改札口を出て右側。

交通：新幹線「あさま 601 号」(東京 6:52→大宮 7:17→熊谷 7:30→高崎 7:45→長野 8:37 着)、または「かがやき 503 号」(東京 7:20→大宮 7:45→長野 8:42 着)など。

解散：23 日 16 時頃、長野駅前。「あさま 626 号」(16:24 発）に乗車できるように調整。

費用：16,000 円の予定（１泊３食、現地バス代、旅行傷害保険料等)。万一過不足は当日清算。集合地までの往復交通費は各自負担。

定員：14 名。

申し込み:当会ＨＰで９月１日から受付開始。

担当：菱沼(一)、浅見(徹)、近藤、菱沼(洋)

見どころ：コロナ禍での３回目の秋の探鳥会です。今回もコロナ対策のため、参加人数を少なくして実施します。ムギマキやマミチャジナイなどの旅鳥、運が良ければ、冬鳥と夏鳥を同時に見ることができます。新そばも楽しみの一つです。

その他:宿泊は男女別２名１室(夫婦は同室)。

2021 年秋の戸隠高原探鳥会　鏡池での探鳥風景

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：**10 月 29 日（土）　要予約**

集合:午前８時 45 分､中央エントランス駐車場。

解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーンで。

交通：東武線館林行き 新越谷 7:23 春日部 7:38 東武動物公園 7:43 で南栗橋行きに乗り換え 南栗橋 7:54 着で東武宇都宮行きに乗り換え 柳生 8:10 着。または JR 宇都宮線下り大宮 7:27 栗橋 7:55 着 東武日光線に乗り換え 柳生 8:10 着。

募集人数：30 名

担当：佐野、浅見(徹)、大井、小林(み)、近藤、野口

見どころ：谷中湖では戻ってきた水鳥や猛禽類を、ヨシ原では冬の小鳥を探します。

ご注意：柳生駅からの案内はありません。遊水地への標識に従ってお越しください。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

『しらこばと』№424,p8（2019.7）から抜粋転載

【熱中症ガイドラインの概要】

探鳥会前日に発表される開催地周辺の熱中症情報(暑さ指数＝WBGT)で探鳥会開催の可否を判断する。９時または 12 時の時点での熱中症情報がどちらか一方でも、

①「危険」(WBGT が 31℃以上）⇒ 原則中止とする。

②「厳重警戒」(同 28℃以上 31℃未満)⇒メインリーダーの判断によって中止または時間短縮・コース変更を行う。

③「警戒」(同 25℃以上 28℃未満）⇒参加者に注意喚起し、時間短縮、コース変更も検討する。

12月11～12日（土～日）宮城県 伊豆沼・蕪栗沼・志津川

参加：27(会員27)名　天気：11日=晴、12日=曇

ヒシクイ　マガン　カリガネ　ハクガン　シジュウカラガン　コクガン　オオハクチョウ　オカヨシガモ　ヨシガモ　ヒドリガモ　マガモ　カルガモ　ハシビロガモ　オナガガモ　トモエガモ　コガモ　ホシハジロ　キンクロハジロ　スズガモ　ホオジロガモ　ミコアイサ　カワアイサ　カイツブリ　カンムリカイツブリ　ミミカイツブリ　キジバト　カワウ　ウミウ　アオサギ　ダイサギ　コサギ　オオバン　イソシギ　ウミネコ　セグロカモメ　オオセグロカモメ　トビ　チュウヒ　オオタカ　ノスリ　コチョウゲンボウ　ハヤブサ　モズ　ハシボソガラス　ハシブトガラス　シジュウカラ　ウグイス　エナガ　ミソサザイ　ムクドリ　ツグミ　ジョウビタキ　イソヒヨドリ　スズメ　ハクセキレイ　セグロセキレイ　ベニマシコ　ホオジロ　アオジ　オオジュリン（60種）　やっと開催できた。初日は、化女沼と南方町の田圃及び伊豆沼を訪れた。カリガネの可愛らしいアイリングや、塒入りの時にマガンの群れの中にいた20羽のハクガンが印象に残った。２日目の早朝は、蕪栗沼で飛び立ちを見た。シジュウカラガンが多く、一斉に飛び立った瞬間は物凄い迫力。ホテルをチェックアウトして志津川湾へ出発。南三陸・海のビジターセンターでは約150羽のコクガンを見られた。２日間とも非常に暖かく、お目当てのガン６種もじっくり見られて満足。　**（入山　博）**

12月16日（木）　東京都　浮間公園

参加：23(会員23)名　天気：晴

ヒドリガモ　カルガモ　ハシビロガモ　オナガガモ　ホシハジロ　キンクロハジロ　カイツブリ　キジバト　カワウ　アオサギ　ダイサギ　コサギ　バン　オオバン　セグロカモメ　オオタカ　カワセミ　コゲラ　ハシボソガラス　ハシブトガラス　シジュウカラ　ヒヨドリ　ウグイス　メジロ　ムクドリ　ジョウビタキ　スズメ　ハクセキレイ（28種）（番外：ドバト）　浮間池はホシハジロとキンクロハジロの潜水ガモ２種が大半を占め、淡水ガモは少数派。ブイの上で休んでいるホシハジロとカルガモの脚の位置を観察した。潜水ガモはなぜ潜水が得意なのか、納得していただけたことと思う。ホシハジロの雄雌比は相変わらず10対１か、もしかしたらそれ以上に雄が多い。雌はいったいどこで越冬しているのだろうか？　オオタカが、鳥合わせの最中に登場した。　**（小林みどり）**

12月18日（土）　さいたま市　岩槻文化公園

参加：26(会員26)名　天気：晴

カルガモ　カイツブリ　キジバト　カワウ　アオサギ　イカルチドリ　トビ　ハイタカ　カワセミ　コゲラ　モズ　カケス　ハシボソガラス　ハシブトガラス　シジュウカラ　ヒヨドリ　ウグイス　エナガ　メジロ　ムクドリ　アカハラ　ジョウビタキ　スズメ　ハクセキレイ　セグロセキレイ　アトリ　カワラヒワ　ベニマシコ　ウソ　シメ　ホオジロ　アオジ（32種）　村国池の奥の林でアトリ、散策の森脇の水路でカワセミが出迎えてくれた。テストコースではベニマシコやウソを数人が確認。カモはカルガモ１種のみで少々淋しかったが、鳥合わせの最中に上空をトビ、続いてハイタカが飛んでくれた。２年ぶりに探鳥会を開催できた喜びを皆と分かち合った。　**（長野誠治）**

12月19日（日）　さいたま市　三室地区

参加：22(会員22)名　天気：晴

コガモ　カイツブリ　キジバト　カワウ　アオサギ　ダイサギ　バン　オオバン　オオタカ　カワセミ　コゲラ　モズ　オナガ　ハシボソガラス　ハシブトガラス　シジュウカラ　ヒバリ　ヒヨドリ　ウグイス　メジロ　ムクドリ　ツグミ　ジョウビタキ　スズメ　ハクセキレイ　セグロセキレイ　カワラヒワ　ホオジロ（28種）　道端の低木にモズ♂登場。「モズは秋には高鳴きをしますが、この季節は既になわばりが決まっているので、あまり鳴きません」と話しているのに、いきなり「キチキチキチ！」と鳴く。「イヤな奴だな」と思ったら、なんと道を隔てたところに、モズがもう１羽！ どうやらそこは、なわばり最前線だったらしい。これは鳴かずにいられないだろう。ところで第二のモズは♀である。モズの繁殖期は他の鳥より早い。もしかしたら“Boy meets girl”の瞬間

だったかも？　鳥たちの小さなドラマに出会えて、ちょっと嬉しかった。　（小林みどり）

12月25日（土）　幸手市　宇和田公園
参加：25(会員25)名　　天気：晴

マガモ　カルガモ　コガモ　キジバト　カワウ　アオサギ　オオバン　クサシギ　イソシギ　オオタカ　ノスリ　カワセミ　コゲラ　チョウゲンボウ　モズ　ハシボソガラス　ハシブトガラス　シジュウカラ　ヒヨドリ　ウグイス　メジロ　ムクドリ　ツグミ　ジョウビタキ　スズメ　ハクセキレイ　セグロセキレイ　カワラヒワ　シメ　ホオジロ　アオジ（31種）　メジロの当たり日か、公園内外でよく見られた。中川の浅瀬にはイソシギに加えて珍しくクサシギがいた。猛禽類は終盤に集中して出現。ノスリが圏央道近くの鉄塔に。そして、鳥合わせ中にオオタカが公園の林から飛び出し、いよいよ解散という時には、このあたりを縄張りにするチョウゲンボウの♂♀が仲良く？飛び回り楽しませてくれた。　（佐野和宏）

１月４日（火）　さいたま市　さぎ山記念公園
参加：27(会員27)名　　天気：晴

コジュケイ　オカヨシガモ　ヒドリガモ　カルガモ　ハシビロガモ　オナガガモ　コガモ　カイツブリ　キジバト　アオサギ　バン　オオバン　ハイタカ　ノスリ　カワセミ　コゲラ　チョウゲンボウ　モズ　ハシボソガラス　ハシブトガラス　ヤマガラ　シジュウカラ　ヒヨドリ　ウグイス　メジロ　ムクドリ　シロハラ　ツグミ　ジョウビタキ　スズメ　キセキレイ　ハクセキレイ　セグロセキレイ　カワラヒワ　シメ　ホオジロ　カシラダカ　アオジ（38種）（番外：ドバト）　新春を祝う探鳥会。スタートしてすぐにキセキレイを確認、上空にはノスリ、ハイタカが舞う。ジョウビタキ、カシラダカ、アオジなど冬鳥が勢揃い。コゲラが目の前で「ギー、ギー」。風で乱れた後頭部に赤い点が見られオスだと判明。見沼自然公園ではカモ類が寒そうにしていた。　（大井智弘）

１月６日（木）　久喜市　久喜菖蒲公園
参加：18(会員18)名　　天気：曇

ヨシガモ　ヒドリガモ　マガモ　カルガモ　ハシビロガモ　オナガガモ　コガモ　ホシハジロ　キンクロハジロ　ミコアイサ　カイツブリ　カンムリカイツブリ　ハジロカイツブリ　キジバト　カワウ　アオサギ　ダイサギ　コサギ　オオバン　カワセミ　コゲラ　モズ　ハシボソガラス　ハシブトガラス　シジュウカラ　ヒヨドリ　ウグイス　メジロ　ムクドリ　シロハラ　ツグミ　ジョウビタキ　スズメ　ハクセキレイ　セグロセキレイ　アトリ　カワラヒワ　アオジ（38種）（番外：ドバト）　気になっていたカモ類は10種を楽しめた。その他の水辺の鳥では亜種オオダイサギ、カワセミ等。中でもオオバンの群れが賑やかだった。林の鳥ではシロハラに続いて、久しぶりのアトリの群れに歓声が上がり盛り上がった。　（長嶋宏之）

１月８日（土）　千葉県 ふなばし三番瀬海浜公園
参加：26(会員26)名　　天気：晴

ヒドリガモ　オナガガモ　スズガモ　ビロードキンクロ　ホオジロガモ　ウミアイサ　カンムリカイツブリ　ハジロカイツブリ　キジバト　カワウ　アオサギ　オオバン　ダイゼン　シロチドリ　ミヤコドリ　ミユビシギ　ハマシギ　ユリカモメ　ズグロカモメ　セグロカモメ　ミサゴ　トビ　モズ　ハシボソガラス　ハシブトガラス　シジュウカラ　ヒヨドリ　ウグイス　メジロ　ムクドリ　ジョウビタキ　スズメ　ハクセキレイ　タヒバリ　オオジュリン（35種）（番外：ドバト）　少しのぞいていた干潟にシロチドリ、ハマシギ、ミユビシギが集まっていて、違いをじっくり観察した。沖合でユリカモメの大群の乱舞、初めての光景に皆で感動した。東側堤防から、ビロードキンクロ、ホオジロガモ、ウミアイサを観察。堤防上ではミヤコドリ、ユリカモメ、ズグロカモメなど埼玉で見られない鳥たちを堪能した。　（菱沼一充）

１月10日（月祝）　春日部市　内牧公園
参加：21(会員21)名　　天気：曇

キジバト　アオサギ　ダイサギ　タシギ　カワセミ　コゲラ　モズ　カケス　ハシボソガラス　ハシブトガラス　シジュウカラ　ヒバリ　ヒヨドリ　ウグイス　メジロ　ムクドリ　シロハラ　ツグミ　スズメ　ハクセキレイ　セグロセキレイ　タヒバリ　アトリ　カワラヒワ　シメ（25種）（番外：ドバト）　前半はツグミ、カワセミ、タヒバリを見、後半はシロハラ２羽に続きアトリ７羽が間近に現れ、最後はタシギ１羽で締めて、ようやく冬の探鳥会らしくなった。　（石川敏男）

連絡帳

●訃報

元支部長中島康夫さん(蓮田市)が、５月８日(日)逝去されました。享年 82 歳。17 日(火)18 時より通夜式、翌 18 日(水)10時30分より告別式が上尾市内の斎場で開催され、「日本野鳥の会埼玉 会員一同」の供花のもと、多くの当会会員たちが参列してお別れを惜しみました。

中島さんは 1986 年から 1998 年まで 12 年間普及部長、1998 年から 2003 年まで５年間、４代目支部長として、当会を導いてくださいました。ご冥福をお祈りします。

●戸田市の鳥選定中

戸田市では現在、市の鳥を決めるための作業が進められています。候補としてアオサギ、オオバン、オナガ、カワセミ、カンムリカイツブリ、コサギ、シジュウカラ、ハクセキレイ、ヒバリ、ユリカモメの 10 種があげられ、同市在住の高橋達也当会会員も候補種推薦者の一人になっています。

市民でなくてもアンケートに回答できますが、締め切りは６月 16 日とのこと。本誌発行日が隔月のためタイミングが合わず、前号までにお知らせできませんでした。回答が最も多かった鳥が「市の鳥」として、10 月１日に制定される予定です。

●ごめんなさいコーナー

本誌表紙最上段第３種郵便物に関する記載の内の通巻番号につき、３-４月号が 451 号であるところが 450 号に、5-6 月号が 452 号であるところがやはり 450 号に、何故か当方の原稿とは異なる数字に印刷されていました。

●会員数は

６月１日現在 1,467 人です。

活動報告

2022 年５月 28 日(土)午後３時から。ネット印刷に向けての検討会議を会事務局で対面開催、出席者６名。

５月 29 日（日）16 時から Zoom で普及部会を開催。

６月４日(土)-６日(月)、メール交換による役員会を開催。**議案第１号** 令和4年9-10 月の探鳥会(案)について(普及部上程)、**議案第２号** 当会 HP の URL 変更(案)について」（普及部と IT 委員会との共同上程)、**議案第３号**『しらこばと』印刷をネット印刷に変更する(編集部上程)を承認した。

編集後記

５月 28 日、関係者６名が事務局に集まりネット印刷に向けての検討会。ほとんどの人が顔を合わせるのも来局も２年半ぶり。私以外は予定時刻前に集合済み。話題もすでに近況報告から本題まで大いに盛り上がっていた。やはり、話し相手の目を見ながらの会議は、”いい”！（山部）

しらこばと 2022 年 7-8 月合併号(第 453 号)定価 200 円（会員の購読料は会費に含まれます）
発行人 日本野鳥の会埼玉代表 山部直喜 （〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目 26 番8号 プリムローズ岸町 107 号） TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
郵便振替 00190-3-121130 URL http://www.wbsj-saitama.org 事務局 office@wbsj-saitama.org
編集部への原稿 yamabezuku@wbsj-saitama.org 編集部への野鳥情報 toridayori@wbsj-saitama.org
住所変更などの連絡は gyomu@wbsj.org または TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635
〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番 23 号 丸和ビル (公財)日本野鳥の会会員室へ
本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。